2019 駒木祭イベント企画「日光国立公園がやってきた!」報告

中島　慶二
国立公園研究所長

2019年度の駒木祭企画は、駒木祭に訪れる一般の方々向けに国立公園について普及啓発を行う形にし、子ども向けの遊びなどを取り入れながら実施することとした。(実施日：2019年11月2日～3日)

具体的には、「日光国立公園がやってきた！」と題し、国立公園の写真パネル、ポスター等をはじめとする資料展示と、シカ革を使ったクラフトワークショップ、数種類の生き物の中から外来種を当てる子ども向けゲームなど、あらゆる年齢層に向け楽しめるような展示になるよう、関係者一同で工夫した。以下、写真を用いて報告する。

1. 日光国立公園土呂部地区の茅ボッチの実物と説明パネルの展示

(B棟入口、B棟6階展示教室の2か所)

日光市土呂部地区は、日光国立公園内の栗山地域に位置する盆地状の地形に広がる集落で、未だ山里の暮らしを残しているが、近年の過疎や産業の変化によって人口が３０名足らずに減少している。山里で営まれてきた暮らしを象徴しているのがこの茅ボッチである。草原に生える茅(カヤ)を刈って束にしてまとめ、天日で乾燥させた後、冬季の間に牛の牧草として利用している。

土呂部地区から宮地研究員が茅ボッチを持ち込み、B棟入口と展示教室に据えて茅ボッチの実物の展示を行った。

写真①　日光市土呂部地区で作られる茅ボッチ

また定期的に茅や雑草、若木等を刈りながら秋に茅ボッチをつくり、草原の森林化を防ぐ自然保全とともに、昔ながらの山里の暮らしを維持していく活動を行っている「日光茅ボッチの会」の詳しい活動内容を紹介した。

２．日光国立公園の風景写真パネル展示

中島研究所長、宮地研究員が撮影した日光国立公園の風景写真を中心にパネル化し、部屋の壁際に展示した。(写真②奥)

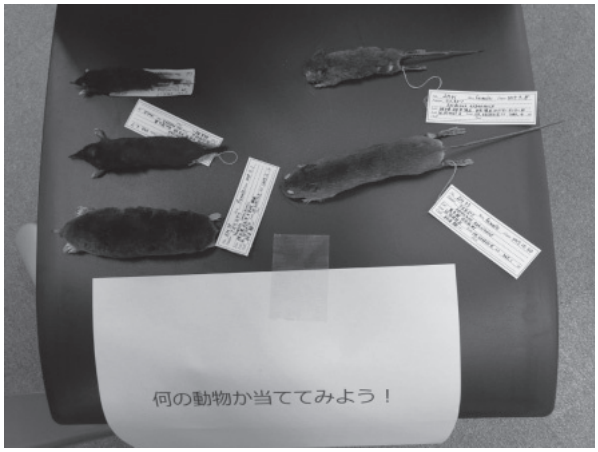
写真②　風景写真をパネルにして会場に展示

写真③　パネルのうちの1枚：日光　苔と紅葉

３．日光の動物に触ろう：自然公園財団による動物の骨格や毛皮、標本などの展示

日光には数多くの動物が生息している。中でもシカやサルなどに出会うことは多いが、実際に手で触れる機会に恵まれることはまずないため、それらの骨格標本などを展示して、実物に触ってもらおうという企画にした。特にヒミズ等、モグラ類の毛の柔らかい手触りに、触ってみた来場者が驚いていた。骨格標本は小学生の子どもたちに人気で、シカの角を持ちながら珍しそうにのぞき込む姿がよく見られた。

写真④　シカの毛皮や野生動物の骨格標本



写真⑤　アズマモグラ、ヒミズ、アカネズミ等の剥製

４．シカ革のクラフトワークショップ：自然公園財団によるシカ革アクセサリー製作実演指導

日光湯元ビジターセンターの職員の派遣を自然公園財団へ依頼し、ご協力をいただいた。実際に日光湯元ビジターセンターで行っている奥日光産のシカ革を使ったクラフト教室を再現してもらい、参加者を募ってブレスレットやブックマーク、ストラップの3種類を作成した。

奥日光では、シカの食害で貴重な高山植物や在来種の植物が減少したり、樹木の剥皮による枯死が見られる。日光湯元ビジターセンターを訪れる観光客に、増えすぎたシカがもたらす問題をわかりやすく伝えるため、シカ革クラフトワークが始まった。

今回の展示の中で一番人気で、常に子どもたちの歓声が上がっていた。大人も同様に楽しむことができる内容で、親子でお揃いのアクセサリーを作る姿や、２回連続で出席して、それぞれ違う種類のものを作っていた参加者もみられた。

写真⑥　子どもたちに大人気だったシカ革クラフトワーク

写真⑦　日光国立公園湯元の袋角のホンシュウジカ

５．子どもパークレンジャーに変身！：環境省国立公園管理官の制服の展示

環境省のパークレンジャーの制服デザインをそのままに再現して子供用サイズに仕立てたものを環境省から借用し、実際に来場者に着てもらい、写真を撮って楽しんでもらおうという企画。子どもたちとお父さんがサイズ違いを着用して記念撮影をする姿も見られ、微笑ましい光景となった。

写真⑧　パークレンジャーのサイズ違いの制服

６．公園計画図の比較展示

日光国立公園の公園計画図を展示した。戦後すぐの時期に調製されたものと、現在のものを比較できるようにして展示し、付近に日光国立公園に関連した内容のパンフレット類も設置した。（写真なし）

計画図のサイズがB0と大きなものだったので、準備の際、手伝いをしてくれた学生が図を傷めないように細心の注意を払いながらパネルに入れていく作業が、かなり骨が折れたという感想が出た。

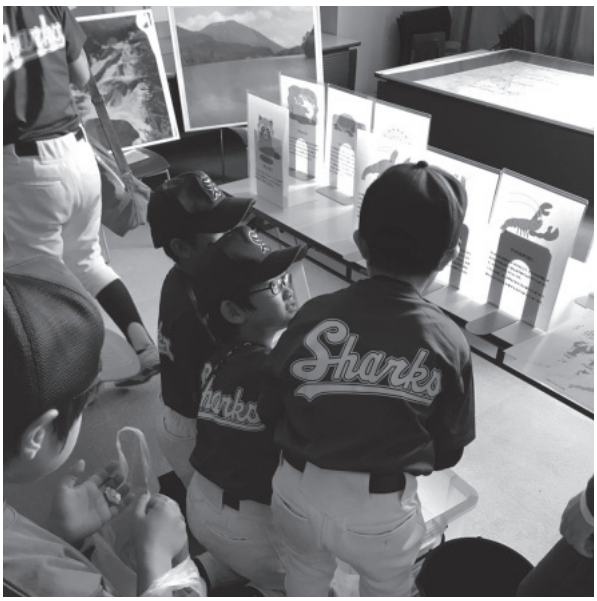
展示後は、数名の熱心な来場者が長い時間をかけて見ていたのが印象的だった。

７．外来生物ゲーム

数種類の在来種と外来種の絵を描いたプレートがたくさん入った箱の中から、数少ない在来生物を探し出す。主にニホンザリガニ、ウチダザリガニ、アメリカザリガニの３種類の中から、ニホンザリガニを「助け出す」という設定のゲームにした。

参加した子どもたちはゲームを楽しみながらも、ザリガニをはじめ日本に生息する外来種についての質問が多く、理解しやすく説明をするのに担当者が苦心していた。

また、千葉県周辺に生息する身近な外来種を説明したプレートを20枚ほど設置し、ゲームをきっかけにあらためてこの問題について考えてもらった。



写真⑨　外来種の説明プレートを熱心に見ている子どもたち

写真⑩　ゲームの後、外来種関連の質問に答える

８．国立公園関係の各種資料閲覧・展示・配布

日光国立公園や国立公園制度に関するポスターやパンフレットなどの資料を、環境省や東武鉄道、日光茅ボッチの会にご協力をいただいて展示、配布した。

また、自然公園財団が発行している国立公園関係の普及用資料（パークナビ、日本の国立公園など）の販売も行った。

写真⑪ご提供いただいた広報物やパンフレット類

９．DVD資料映像による日光国立公園の紹介

環境省が作成し、日光湯元ビジターセンターで放映している日光国立公園の紹介ビデオをエンドレスでスクリーンに流した。日光国立公園内の四季それぞれの美しい映像と、ガイド数名による日光の魅力について語る詳しい説明が好評だった。（本研究所宮地研究員が出演。写真なし）

今回の駒木祭企画展示の実施に当たっては、環境省国立公園利用推進室、環境省日光国立公園管理事務所、東武鉄道、自然公園財団、自然公園財団日光支部、日光茅ボッチの会から多大なるご支援、ご協力を賜った。ここにあらためてお礼を申し上げる。